

メッセージアウトライン テサロニケ人への手紙 第一1:4～10 「神に選ばれた者」

[4]「神に愛されている兄弟たち。あなたがたが神に選ばれた者であることは私たちが知っています」

「神に愛されている兄弟たち」…神に愛され、神の御子イエス・キリストによって救われた者として神を父とする兄弟姉妹（クリスチャン）のこと。

「神に選ばれた者」…人間の側に条件となるような良きものは何もない。ただ神の無条件的選びによって選ばれた者。これは人間の誇るべき特権ではなく、ただ神の恵みである。「私たちが知っています」…他ならぬ信仰の先輩である使徒パウロたちがそれを確信し宣言している。

[5]「なぜなら、私たちの福音があなたがたに伝えられたのは、ことばだけによったのではなく、力と聖霊と強い確信とによったからです。また、私たちがあなたがたのところで、あなたがたのために、どのようにふるまったかは、あなたがたが知っています」

この「力」は聖霊の働きと密接に結びついている。「強い確信」も同様に聖霊の働きによって確立される内的な確信である。→ I コリント2:4、ローマ15:18-19

ここで、パウロたちは自分たちが宣べ伝えた福音に生きることによって、伝えていることばも、実際の行いも何も矛盾はないということを身を持って示している。このことは「あなたがたが知っています」とテサロニケ人たちがすでによく知っているという事実を強調する。

[6]「あなたがたも、多くの苦難の中で、聖霊による喜びをもってみことばを受け入れ、私たちと主とにならう者になりました」

テサロニケ人たちが使徒たちと主にならう者になったのは、彼らがみことばを信じ受け入れたという事実に基づく。主イエスを信じる者はこの世で多くの苦難を受ける。→ヨハネ16:33、ピリピ 1:29 クリスチャン生活は信仰のゆえに苦しみも受けるが、またそれにともなって聖霊による喜びも持つことができる。これはこの世が提供するはかない喜びではなく、聖霊による深い確信をともなった聖い喜びである。

[7]「こうして、あなたがたは、マケドニヤとアカヤとのすべての信者の模範になったのです」

使徒たちと主にならう者となったテサロニケ人たちは、今度は他の人たちの模範となった。「マケドニヤとアカヤ」はギリシヤの北部と南部の州でギリシヤの大部分を占める地域。

[8]「主のことばが、あなたがたのところから出てマケドニヤとアカヤに響き渡っただけでなく、神に対するあなたがたの信仰はあらゆる所に伝わっているので、私たちは何も言わなくてよいほどです」

「響き渡る」とは強い表現で、トランペットや雷の音が鳴り渡るように福音が広がっていく様子がわかる。「あらゆる所」とはパウロたちが行った所はどこでもとい

う意味。それは、もうパウロたちが何も付け加える必要がないほどであった。

[9-10]「私たちがどのようにあなたがたに受け入れられたか。また、あなたがたがどのように偶像から神に立ち返って、生けるまことの神に仕えるようになり、また、神が死者の中からよみがえらせなされた御子、すなわち、やがて来る御怒りから私たちを救い出してくださるイエスが天から来られるのを待ち望むようになったか、それらのことは他の人々が言い広めているのです」

10節の「他の人々が言い広めている」とはテサロニケ人たちの証しを聞いたそれぞれの地域の人々のこと。主のことばはこのように次々と言い広められていく。

9節は彼らが福音を受け入れた時の様子。そこには偶像礼拝との対決があった。彼らはむなしい偶像の神々を捨てて、本物の生ける真の神に立ち返ったのである。

「神に仕える」とは具体的には、神を礼拝する。みことばに従う。神のみこころに従って生きる。自分を愛するように隣人を愛する。神のために奉仕し、働き、苦しみを分かち合う等が含まれる。

10節では彼らがイエス・キリストの再臨を待ち望む生き方をしていたことがわかる。ここではキリストが二つの面から説明されている。

①神が死者の中からよみがえらせなされた…イエス・キリストの復活の事実。

②やがて来る御怒りから私たちを救い出してくださる…世の終わりの時に来られるイエス・キリストとその救いの完成。

キリストの復活によって私たちの救いは確かなものになった。そして、その救いはキリストの再臨において完成するのである。

私たちも他の人々の模範となったテサロニケ人たちにならって、そのように生きる者になりたい。

